

チエリツプ 四季だより



▲「花童」2003年

「花と野菜に囲まれて」

―田舎暮らしの点描―

元筑波大学教授

高柳謙治

いわゆる「定年帰農」をして五年目になった。その間に手がけた野菜や花の種類はまだ数えたことはないが、六十あまりで百姓の域には到達していない。もともと農家の出身だったので百姓をすることには何の抵



▲プランターのチューリップ



▲火鉢がプランターに変身

抗もなく、すんなりと自分の土地の一部を耕作することになった。実際には十アール余りなので、何とかなるだろうと高をくくって始めたが、定年後の身には堪えた。まずは家の周りの水路、これは長年留守にしていたために泥で埋まってしまっていたので、そのえざらいと周辺の草刈り、それが終わって初めて畑の本番が始まる。家内が一足先に帰っていたので、日常の野菜と花はやらなくてもいいということで、亭主としては、エダマメとソバを主として始めることにした。ほかに重量級のサトイモ、サツマイモも引き受けた。無理をしない程度に、できるだけ自分たちの食べるものを自給しよう、おいしいもの（品種）を選んで作ろうということを目標に、花も実もある田舎暮らしを楽しもうと決めた。

チューリップ：砺波の「野菜花き試験場」から頂いたチューリップの球根を庭に植えた。初年目は慎重に周囲に石灰窒素を撒いてから植え付け



▲ブルーベリーの花と実

たので、うまく花が咲いて楽しませてもらった。翌年は自家生産の球根が沢山とれたので、つい油断していい加減に植え付けた。その結果ほとんどの球根がネズミに囓られたらしく、まばらな花壇となってしまった。仕方がないので翌年からはプランターや火鉢に植え込むことになった。

ブルーベリー：筑波大学にいたときの同僚の果樹園芸担当の福島さんから、石川県（柳田村）にも産地があるから富山でも栽培できるだろうと、ブルーベリーの苗を五十本ほど提供してもらった。定年の二年前のことだったので、初めは先に帰っていた

家内に世話をしてもらっていたのだが、三年目頃から実がつきはじめる、今では最盛期に二、三口はとれるので、ジャムにして楽しんでいる。

ブルーベリーの花はドウダンツツジに似て可憐で、小さな木に沢山着く。「ハイブッシュ系」の品種は六月半ばから実が色づいてきて、約一ヶ月間は毎日収穫できる。「ラビットアイ系」のものは少し遅れて、七月末からの収穫となる。富山平野の水田地帯でも転換畑で十分に生育できることが実証されたと思っている。完全な無農薬栽培でも虫や病気があまりつかない。ただし、鳥に狙われるので防鳥ネットが要ることと、収穫

は手摘みなのでこれ以上の規模拡大はできない。



▲サトイモの花 (9月)

を某種苗屋さんから手に入れた。どんなイモができるか今から楽しみである。

ソバ：私の家でも昔はソバを栽培していた記憶がある。しかし、

最近では中山間地へ行かなければソバの花は見られない。そこでソバの復活を試みた。筑波にいたとき、最後の三年間は単身赴任ということになったので、行きつけの飲み屋でおいしいソバが喰いたいと言ったら、自分で作るのが一番だということになり、隣にいた客が「俺の畑を提供するよ」と言ってくれた。その飲み屋の仲間と相談して、初めは五人く

らいで近くの畑でやることになった。茨城県は「常陸秋ソバ」の本場、早速種子を取り寄せて栽培し、収穫も共同でやった。粉ひきは外注となったが、ソバ打ちはもちろん自前。このソバ打ち仲間があれからずっと続いているそう。この時のソバの味が忘れられなくて富山でも、「常陸秋ソバ」を試してみた。最初の二年間は開花期まで順調にいったのだが、その後、ハスモンヨトウに葉を食い荒らされて、収穫皆無だった。それでも諦めずに三年目に、ついに十五キロの玄ソバを手にした時はうれしかった。自分で粉をひきソバをこねた。味もまあまあであった。自給を目指すにはほど遠いが、いまは、近所の年寄り仲間と声をかけて輪を拡げようとしている。



【略歴】

たかやなぎ けんじ

一九三五年七月、富山県生まれ(富山市在住)

東北大学農学部卒、同大学院農学研究科修士課程修了後、一九六〇年農林省農業技術研究所研究員、一九八〇年野菜試験場育種第一研究室長、育種部長などを経て、一九九〇年農業生物資源研究所企画連絡室長(企画調整部長)、一九九二年十一月から筑波大学教授(農林学系)、一九九九年三月停年退官、郷里に帰り農業に従事。農学博士(東北大学)、現在、富山県立大学(短期大学部) 非常勤講師。

●主な著書：「バイオテクノロジーと食糧生産」(共著)、「日本人のための生物資源のルーツを探る」(共著)、「茶の栽培と利用加工」(共著)、「世界の野菜」(共訳) ほか

サトイモ：これも地場ものを使えばいいのに、砺波の野菜花き試験場からいろんな品種を頂いて、おいしい品種を探そうとした。平成十一年九月にその中の一品種「紀州」にサトイモの花が咲いた。これはうれしかった。これまで日本の品種で自然に開花するのは「土垂」と「えぐ芋」くらいしかないと思っていたので。これまでのところ、味のほうは「八つ頭」以外、あまり大きな違いがなさそうで、収量的には「大和」かなというところだった。しかし、未だに捨てきれず毎年、九品種を栽培している。ところが今年の冬はかなり寒かったために、種芋の半分以上が腐ってしまった。家内には「残念でしたね!」と言われながら、でも、何とか九品種は残した。それに今年



▲ソバの花とシートの上での天日干し

チューリップ 分類の移り変わり

1958年当時の チューリップの分類

〈早生咲き〉

1. DUC VAN TOL TULIPS

〈ダック・ファン・トール〉

非常に早咲き、一重、草丈二十cm以下。



▲‘ダック・ファン・トール イエロー’ (1830年)

2. SINGLE EARLY TULIPS

〈一重早咲き〉[SE]

開花が最も早く、四月中旬に開花する。花はとがり弁でコップ形の小花。草丈はわい性で十〜二十cm。

3. DOUBLE EARLY TULIPS

〈八重早咲き〉[DE]

開花は前種と同じか僅かに遅れる。一重早咲きから突然変異として生じたものが多い。十五cm内外。

〈中生咲き〉

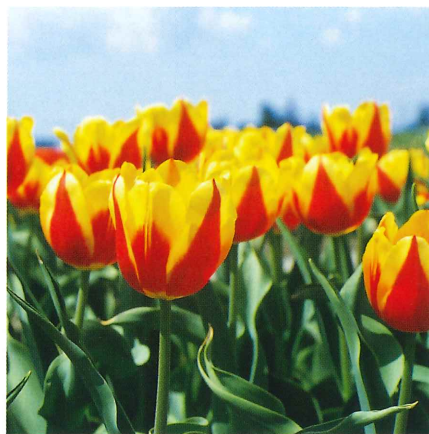
4. MENDEL TULIPS (ヘメンデル) [M]

主にダック・ファン・トールとダーウィンの交配種、一重咲き、草丈は約四十cm以下。開花期は四月二十日前後の中生咲き。早咲き種の欠点が改善され、両親の中間の性質を示す。

5. TRIUMPH TULIPS

〈トライアンフ〉[T]

主に一重早咲きと晩生咲き(May Flowered) チューリップの交配種、一重咲き、草はメンデルより強健で草丈は約四十cm以下。四月下旬に開花する中生咲き。



▲‘カイザースクール’ [SE] (1750年)



▲‘キング オブ ザ レッド’ [M(SL)] (1909年)

〈晩生咲き〉

6. DARWIN TULIPS

〈ダーウィン〉[D]

一重咲き、花型は一般に花底部が直角になる。四月下旬から五月上旬にかけて開花する。草丈は一般に高性で、茎長は三十cmから五十五cm内外。

7. DARWIN HYBRID TULIPS

〈ダーウィン・ハイブリッド〉[DH]

一重咲き、ダーウィンのフォステリ

アナ(またはその交配種)との交配種。開花期は四月二十日前後。草丈は高性で五十cm以上に達するものが多い。

8. BREEDER TULIPS

〈ブリーダー〉[B]

一重咲き、花は卵型又はとがり弁のカップ形。五月上旬開花。草丈はダーウィンの匹敵する高性。

9. LILY-FLOWERED TULIPS

〈ユリ咲き〉[L]

一重咲き、花は花弁がとがり反転する。コッテージから分離された系統。

10. COTTAGE TULIPS

(SINGLE LATE TULIPS)

〈コッテージ(一重遅咲き)〉[C(SL)]

6、7、8、9に属さないチューリップ、一重咲、概ね長卵形の花。この系統は、他に属さない遅咲き一重咲きの品種を全て含む。五月初めの開花が多い。

11. REMBRANDT TULIPS

〈レンブラント〉[R]

縞斑のあるダーウィン。白または黄色地に赤色などのモザイク状の縞が入るが、縞はほぼ規則的にあらわれ、ウイルス病によるものではない。

12. BIZARRE TULIPS

斑入のブリーダー又はコッテージ、

一重咲、花色は黄色地に褐色、赤銅色、黒色、紫色などの縞または汚斑を生じる。

13. BLOEMEN TULIPS

斑入のブリーダー又はコッテージ、

一重咲、花色は白地に淡紅色、桃色、青紫色などの縞又は汚斑を生じる。

14. PARROT TULIPS

〈パロット咲き〉[P]

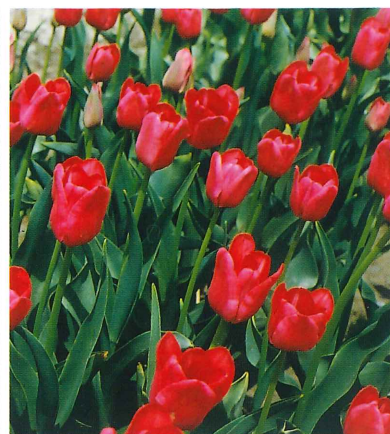
花弁の縁が鋸歯状になるチューリップ。すべて、ダーウィン、コッテージ、ブリーダーなどの一重咲き品種からの突然変異として生じたもの。

現在、チューリップは花の咲く時期(早生・中生・晩生)と花の形によって十五に分類されていますが、現在の分類となったのは、一九八一年のオランダのリストからです。

六・七頁に以前よりオランダの資料「De tulip」を連載していますが、この中に現在の分類にはない名前が出てきます。一九五八年以降のオランダの品種リストを元に、チューリップの分類の移り変わりを古い品種と共に紹介します。

15 DOUBLE LATE TULIPS
(PAEONY-FLOWERED)

〈八重遅咲き〉[DL]
主に、ダーウィンやコッテージから突然変異として生じた晩生八重咲き種。



▲ 'パーチコン' [D(SL)] (1894年)

〈原種とその交配種〉

16 BATALINI, varieties and hybrids

〈バタリニー種とその交配種〉

17 EICHLERI, var.

〈アイクレリー種とその交配種〉

18 FOSTERIANA, var.

〈フォステリアナ種とその交配種〉[F]

開花は四月上旬で一重早咲きよりも早い。球根収量は良い。

19 GREIGI, var.

〈グレイギー種とその交配種〉[G]

開花は四月中旬。葉に紫色の美しい虎斑又は縦縞がある。

20 KAUFMANIANA, var.

〈カウフマニアナ種とその交配種〉[K]

開花は四月上旬で最も早い。球根収量は少ない。

21 MARIOLETTI, var.

〈マジョレッティー種とその交配種〉

22 TUBERGENIANA, var.

〈チューベルゲニアナ種とその交配種〉

23 OTHER SPECIES and their var.

〈その他の原種とその交配種〉[S]

1981年～現在

- 〈早生咲き〉
- ①一重早咲き
- ②八重早咲き
- 〈中生咲き〉
- ③トラインフ
- ④ダーウィン・ハイブリッド
- 〈晩生咲き〉
- ⑤一重遅咲き
- ⑥ユリ咲き
- ⑦フリンジ咲き
- ⑧ピリデ咲き
- ⑨レンブラント
- ⑩パーロット
- ⑪八重遅咲き
- 〈原種とその交配種〉
- ⑫カウフマニアナ種
- ⑬フォステリアナ種
- ⑭グレイギー種
- ⑮その他の原種

1969年～

- 〈早生咲き〉
- (1)一重早咲き
- (2)八重早咲き
- 〈中生咲き〉
- (3)メンデル
- (4)トラインフ
- (5)ダーウィン・ハイブリッド
- 〈晩生咲き〉
- (6)ダーウィン
- (7)ユリ咲き
- (8)コッテージ(一重遅咲き)
- (9)レンブラント
- (10)パーロット
- (11)八重遅咲き
- 〈原種とその交配種〉
- (12)カウフマニアナ種とその交配種
- (13)フォステリアナ種とその交配種
- (14)グレイギー種とその交配種
- (15)その他の原種とその交配種

1958年～

- 〈早生咲き〉
- ①ダック・ファン・トール
- ②一重早咲き
- ③八重早咲き
- 〈中生咲き〉
- ④メンデル
- ⑤トライアンフ
- 〈晩生咲き〉
- ⑥ダーウィン
- ⑦ダーウィン・ハイブリッド
- ⑧ブリーダー
- ⑨ユリ咲き
- ⑩コッテージ(一重遅咲き)
- ⑪レンブラント
- ⑫BIZARRE TULIPS
- ⑬BIJBLOEMEN TULIPS
- ⑭パーロット
- ⑮八重遅咲き
- 〈原種とその交配種〉
- ⑯バタリニー種とその交配種
- ⑰アイクレリー種とその交配種
- ⑱フォステリアナ種とその交配種
- ⑲グレイギー種とその交配種
- ⑳カウフマニアナ種とその交配種
- ㉑マジョレッティー種とその交配種
- ㉒チューベルゲニアナ種とその交配種
- ㉓その他の原種とその交配種



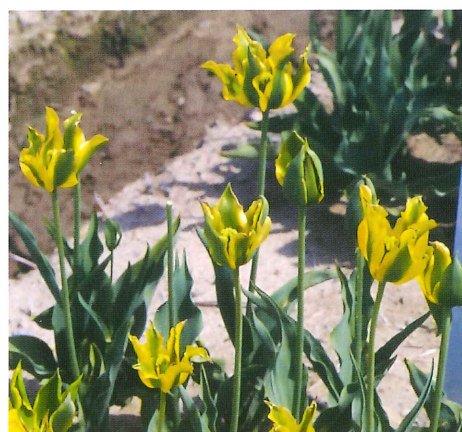
各々統合されたもの。



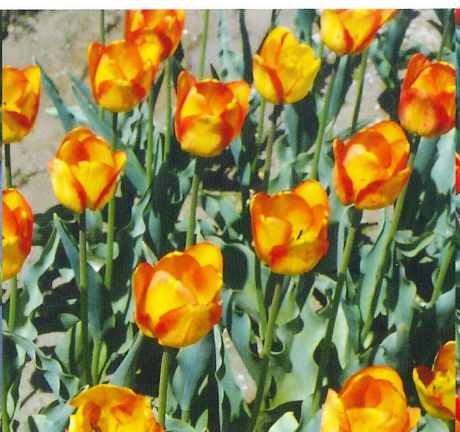
— 開花時期の区分が変更となったもの。

— 新たに追加されたもの。

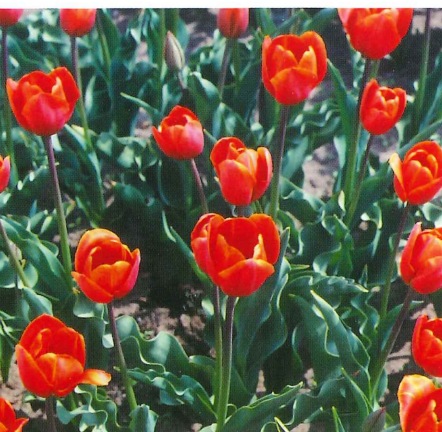
※写真下文「品種名」[古い分類(現在の分類)](リスト記載年)
※写真及び資料提供: 富山県チューリップ遺産資源センター他
(写真のチューリップは現在同センターに保存されている品種です。)



▲ 'ピリデフローラ' [C(V)] (1700年)



▲ 'アーゴ' [C(SL)] (1921年)



▲ 'オレンジ ビューティー' [B(SL)] (1905年)

『チューリップ・インスピレーションの泉の四〇〇年』

〈パートV〉

De tulip (オランダ・リッセル市チューリップ博物館発行) より

第六期 一八五〇年～一九〇〇年

(前号のつづき)

球根地帯は、ハーレムからその周辺へさらに移行が進みました。生産地では、余分な雨をポンプで海へと汲み出せる新しい蒸気式揚水所のあることが望まれたのでした。雑草の生えにくい理想的な土壤

―石灰質に富んだ大粒の砂地―が砂丘の後方にあることで海からの侵食を防ぎ、日常的に吹く風によって適当な気温に保たれます。さらに、海抜ゼロメートルの地域は、球根がおぼれる程の降水量もなく干上がることもないので、生産者にとって球根生産にふさわしい場所なのです。

ヴィクトリア王朝下の大英帝国は最盛期を迎えていました。販売の自由化、蒸気船の普及により、接続がスムーズになり、球根の輸出は利益を生む重要な取り引きとなったのでした。

積極的な商売により来訪者も増え、商業はますます発展していきました。球根の取り引きは活動領域をヨーロッパ

全土に広げ、ロシアも主要な取り引き先となりました。

そして、発展に伴い、チューリップの生産地はさらに拡大していきます。一重早咲きのチューリップに人気が出てくるのと同時に、八重咲きの品種群も長期間にわたりチューリップ畑の一角を占めるようになります。

こうして、球根産業が確立されていきました。一八六〇年には生産や販売に関する利益助成組織として、大衆向けの球根生産に関する組合が設立されたのでした。

第七期 一九〇〇年～一九五〇年

二十世紀までにはチューリップ産業はあちこちで順調にスタートし、利益を生んでいたようです。一九〇〇年に花卉球根の販売に関する組合が設立され、その後、生産と販売の各々の利益助成団体ができました。一九〇四年には、生産者(売り手)と販売者(買い手)相互の売買において生じる論争を調整するために、販売活動の仲裁裁判所が必要となりました。これらの組織

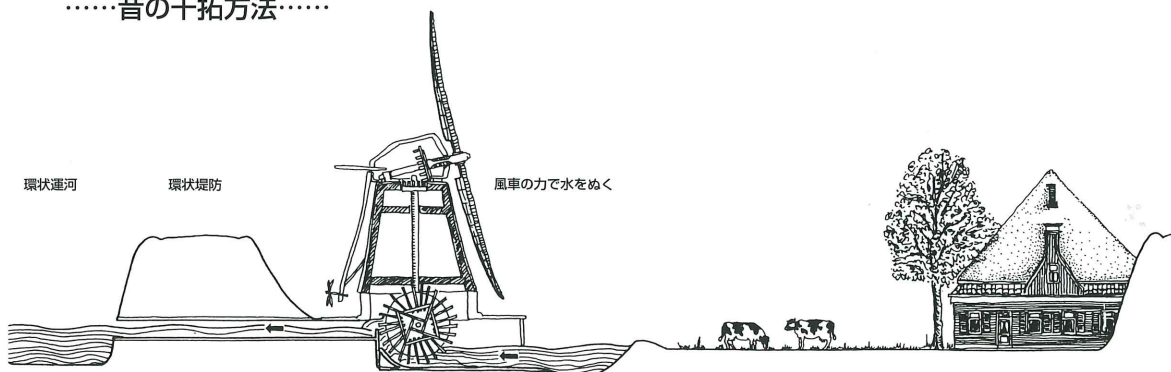
は現在でも存在し、完全に機能しています。

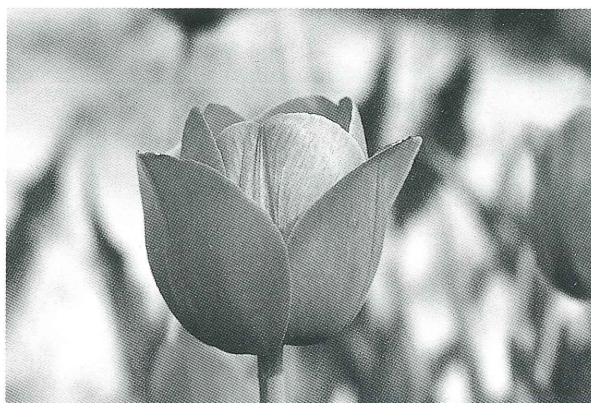
この時期、競売も始まり、生産量と販売量は共にこれまでの最高となり、栽培面積は二千ヘクタール以上に増大します。しかし、一九一四年から一九一八年の戦争(第一次世界大戦)で、大部分の取り引きが無効となり、販売も打撃を受けることとなったのでした。

第六期の末までには、チューリップに新しい分類ができていました。E H Krelage & Zn の合資会社は、第四期にフランスの栽培家が栽培していた品種で、近年注目されはじめていた晩咲きの新しい系統の品種を利用しました。

最初貿易商達はこの新しい種類のチューリップを「つまらないもの」とみなしていませんでした。しかし、Krelage 社があらゆる展覧会―特にパリ(一八八九年)、ヘント(ベルギー・一八九八年)、ブダペスト(一九〇二年)、フロレンス(一九〇三年)、ベルリン(一九〇九年)、ハー

……昔の干拓方法……





▲ダーウィンチューリップ「インサーパスابل」(Insurpassable)
1932年オランダで登録。現在の分類では一重晩咲き。

レム(一九一〇年)で最高賞を獲得した時、商人達はこの新しい系統を認めなければならなくなったのでした。

同社はこの新品種を「ダーウィン・チューリップ」と名付けました。この、花が大きく、晩咲きのチューリップを名付けるにあたり、チャールズ・ダーウィン(かつてのフランスの栽培家)の子孫へ「ダーウィン」の名を欲しいという依頼の手紙を送り、その返事が今に残っています。

手紙

新種のチューリップに父の名をつけたという丁寧な手紙に感謝します。父が生きていればお申し出を喜んで承諾

することでしょう。念のため、親族に問い合わせますが、私同様お申し出のお気持ちをうれしく思うはずです。「ダーウィン・チューリップ」をパリで見られる日を楽しみにしています。

特にイギリスの新聞、雑誌において、この「間違つて」名付けられたチューリップに対する論争が取りざたされました。しかし、その新しい系統のチューリップの特性は際立っており、さらに、そのチューリップから作られたいくつかの早咲き品種が明らかにになりました。そして、この新しい系統の確立に向けて着実な発展をみたのでした。

一九一〇年、最初の大規模な屋外展覧会がハーレムの森に計画されるなど、展覧会を行うことで徐々に森は整備されていったのでした。その展覧会では、屋内の特別展も約二ヶ月間続きました。これは、明らかに後のフロリアードの先駆けといえます。

球根輸出業者にとって新たな問題が出てきまし

た。いくつかの球根畑では、開花したチューリップを切り取り、その花を特にドイツやイギリス市場向けに発送する数量が増加しました。この供給により、花の価格は外国の花の生産者が設定した額に、より近づいたのです。(オランダの球根は当初、切り花販売を目的に花を切り取りました)

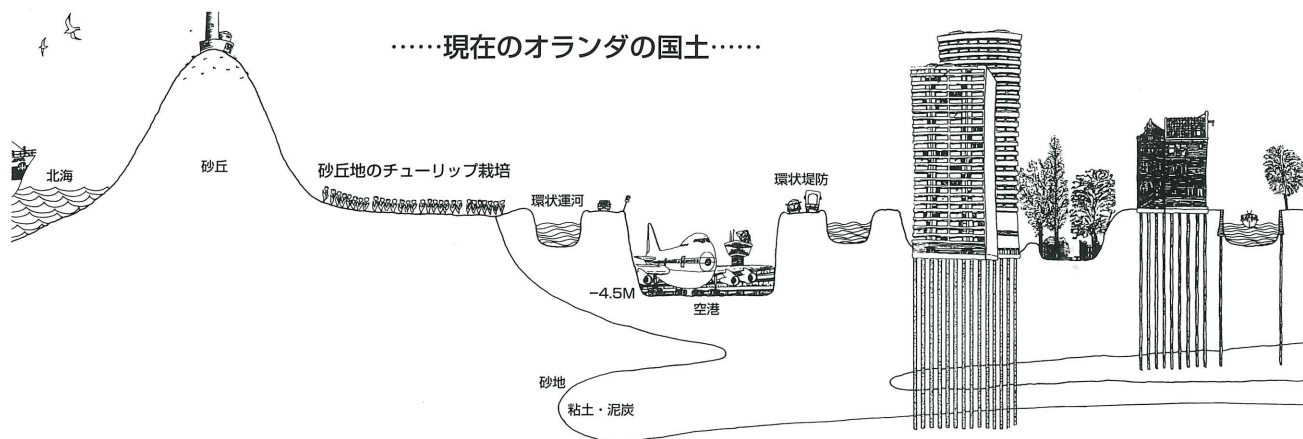
オランダの輸出業者は、球根生産者が花を切り取った球根に対して不買活動を仕はじめました。圧力や集会、キャンペーン・・・前世紀の終わりに『切り花取引の支払に関する一般同盟』が実際に設立されていましたが、その活動はほんの数年間でした。全ての取引が機能しなくなり、緊迫が続きます。一九一四年によくやく打開策として生産者と販売者をつなぐ組合において契約が交わされたのでした。

一、切り花は売らない。
二、この契約を交わさない相手とは球根の取引をしない。

この契約により、特に外国との取引がストップし、その後、順調に取引が続くこととなるのでした。

〈次号へつづく〉

……現在のオランダの国土……



チューリップ四季彩館
からのお知らせ

夏季特別企画展

風の画家 中島潔の世界展

チューリップの新作を含め両館
合わせて110点の心温まる「中島
潔の世界」をご覧ください。

と き：8/8(金)～8/31(日)

第一会場：チューリップ四季彩館

～故郷の花は夢のいる～

第二会場：砺波市美術館

～日本のこころ
故郷のこころ～

2館共通入場料

一 般 800円(前売・団体 600円、割引券持参者 700円)
大・高生 600円(前売・団体 400円、割引券持参者 500円)
*中学生以下無料



▲「夢童」2002年

同時開催

○常設展/チューリップテラス

『季節のフラワーガーデン～球根植物の庭～』 と き：7/18(金)～9/16(火)

○小企画展/2階セミナールーム 『第8回押花展』 と き：8/8(金)～8/31(日)



チューリップ四季彩館
TONAMI TULIP GALLERY

2003年8月発行

(財)砺波市花と緑の財団 〒939-1381 富山県砺波市中村100番地の1

TEL 0763-33-7716・FAX 0763-33-0090

URL <http://www.tulipfair.or.jp/>